



KANAZAWA NOH MUSEUM COLLECTION 2022

「企画展」
金沢能楽美術館
コレクション2022



2022

11.26 SAT

2023

4.9 SUN



【開館時間】 午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

【休館日】 毎週月曜日(休日の場合はその翌平日)
年末年始休館:12月29日(木)～1月2日(月)・4日(水)
但し、1月3日(火)は臨時無料開館

【料金】 ●一般・大学生310円 ●65歳以上210円
●高校生以下無料 ●団体(20名様以上)260円

アクセス/金沢駅兼六園口(東口)バスターミナルより乗車、
「広坂・21世紀美術館」または「香林坊(アトリオ前)」下車。
〒920-0962 金沢市広坂1-2-25
TEL.076-220-2790 FAX.076-220-2791
<https://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp>

KANAZAWA NOH MUSEUM COLLECTION 2022

企画展
金沢能楽美術館
コレクション2022

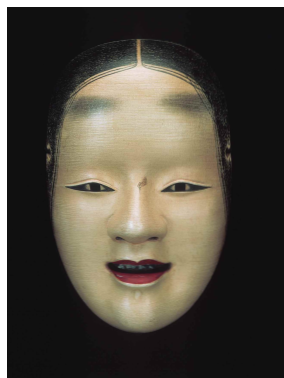
江戸時代、加賀百万石の大名前田家のもと高度な武家文化が開いた金沢。なかでも能楽は茶とともに武士の嗜みとして手厚く保護育成され、のちに「加賀宝生」と称されるほど広く浸透しました。明治維新による幕藩体制の終焉は一時の衰退をもたらしましたが、加賀宝生中興の祖・佐野吉之助をはじめとする能楽愛好者らの尽力により、「謡が降る街、金沢」の伝統が受け継がれました。当館は加賀宝生に伝わった能道具をコレクションの母体とし、以来、能楽に関する貴重な資料の収集・保存・展示を重ねています。

このたびは五節句をテーマに、能に描かれた季節感をご紹介します。役柄のエッセンスを凝縮させた究極の造形美を示す能面や、染織技術の粋を極めた絢爛豪華な能装束など、日本が誇る能楽文化の美意識を感じていただければ幸いです。



面裏

能面 父尉
室町時代 16世紀
(金沢市指定文化財)



能面 節木増
江戸時代 19世紀
(金沢市指定文化財)



能装束 萌葱地籬に菊文唐織
明治時代 19世紀
(金沢市指定文化財)



能装束 赤地露芝に花丸観世水に菊文様唐織
明治時代 19世紀

しゃうたい 写謡の会

要予約 1回500円【要観覧料】

静かな時の中、美しい能の謡を書き写し、心身を浄化させてみませんか。当日の午後に催される定例能（於石川県立能楽堂）について、能楽師による解説の後、謡本の流麗な文字をなぞります。

日程	曲目(予定)	講師(シテ方宝生流)
12月4日(日)	和布刈・天鼓	渡邊 茂人
1月9日(月・祝)	翁・海人	佐野 玄宜
2月5日(日)	七騎落・難波	藪 克徳
3月5日(日)	老松・吉野静	佐野 弘宜

〈時間〉10:15~約1時間
〈持ち物〉筆ペン(または筆・墨・すずり)
〈会場〉金沢能楽美術館 3階
〈参加料〉1回500円+観覧料
〈定員〉各回30名

Kanazawa Noh Museum 金沢能楽美術館

〒920-0962 金沢市広坂1-2-25 TEL.076-220-2790 FAX.076-220-2791

<https://www.kanazawa-noh-museum.gr.jp>

【アクセス】金沢駅東口バスターミナルより乗車、「広坂」または「香林坊(アトリオ前)」下車。(所要時間約10分)

冬の観能の夕べ

プレ講座

要予約 無料【要観覧料】

石川県立能楽堂の「冬の観能の夕べ」各演目について、見どころや物語の背景などを、金沢能楽会の能楽師がわかりやすく解説します。

※演能5回分を2回に分けて解説します。演目・出演者等の詳細は石川県立能楽堂・金沢能楽会HPをご参照ください。

- 第1回 〈日時〉1月15日(日) 10:30~11:30
〈講師〉松田 若子(シテ方宝生流)
- 第2回 〈日時〉3月4日(土) 10:30~11:30
〈講師〉佐野 玄宜(シテ方宝生流)

〈会場〉金沢能楽美術館 3階研修室
〈定員〉各回40名

